



©よい食P

貧困や紛争、疫病や気候変動など…世界中で向き合わなければいけない問題が、今、山積みになっています。誰ひとり取り残されない持続可能でよりよい社会を、2030年までに目指す国際目標“SDGs”。SDGsで示された17の目標それぞれと農業や組織活動、JAとの関わりを、実際に行われている取り組みとともに紹介します(4号連載予定)。SDGsを意識した毎日の行動によって、わたしたち自身や未来を担う子どもたち、地球上の人々の笑顔につなげましょう。



すべての人に **健康** と **福祉** を

老化による姿勢の変化や関節痛を学ぶ健康セミナー

病気の予防や治療はもちろん、心も健康に過ごすことができる社会づくりが求められています。地域の人々と接する機会が多いJAでは、自治体と連携して高齢者の見守り活動を実施。「健康寿命100歳プロジェクト」と題した体操教室やセミナー、産後のお母さん向けのアフタービクス教室、人間ドックを受ける組合員への割引などに加え、交通事故による不幸を防ぐために子どもたちへの交通安全教室も開いています。農業面では、有害物質や環境汚染によって健康被害が出ないように、肥料や農薬、生産資材などを適切に使用することが重要となります。



幼児への交通安全の啓発



中学校での自転車交通安全教室



質の高い **教育** をみんなに

青年部員が土壌を学ぶ現地講習会

あらゆる人があらゆることを学習する機会が平等にあり、一生にわたって必要な知識や技術を身に付けることができる環境が望まれています。自分のやりたいことや、職業や役割に関する技能にむき合っ知見を広げることができると、生活がより豊かになるうえ、他の目標の達成にもつながります。JAと関係各所が開く農作物の栽培研修会をはじめ、女性部や青年部などの団体活動による講習会なども、学習の機会のひとつです。また、JAは地域農業に携わる団体として子どもたちへの食農教育にも力を入れ、農業や食文化への理解醸成を図っています。



梨の栽培研修会



小学生の田植え体験

